

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0971200340 | | |
| 法人名 | 株式会社ユニマツトそよ風 | | |
| 事業所名 | くろいそケアセンターそよ風 (りんどう) | | |
| 所在地 | 栃木県那須塩原市豊浦南町83-120 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年9月19日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年12月5日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人アスク | | |
| 所在地 | 栃木県那須塩原市松浦町118-189 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年10月9日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の美食まつりと各県の郷土料理がある。 ・朝はみんなの体操、昼食前は嚙下体操、夕方はリハビリ体操を実地している。 ・毎月のカレンダーを好きな色に塗り、居室に貼っている。 ・月1回の小旅行や季節の行事等で、季節を感じ気分転換を図っている。 ・毎日大好きな歌を歌っている。 ・毎月各々の目標を立て実施すれば、シールを貼る事で、達成感と意欲を図っている。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|----------------------|
| (すみれユニットの自己評価シートに記載) |
|----------------------|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎日の朝礼時、全員で会社の理念を唱和している。GHの朝礼後にGHの理念を唱和している。理念の内容を理解しサービスの向上に取り組んでいる。 | (すみれユニットの評価シートに記載) | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し一斉清掃や避難訓練へ参加している。また、近隣の方から庭の花が咲くと見に来て下さいと声を掛けられ散歩に行き、花を頂き挨拶を交わし交流を図っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 町内、秋祭りに子供神輿の休憩所になり、地域住民との交流の場となっている。センター開催の納涼祭やお知らせ等を行政区回覧版へ入れて頂き理解と協力を頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度開催。入居者代表、家族代表、自治会長、隣町の自治会長、民生委員、行政担当職員、地域包括職員の参加、内容に合わせ、警察署員、消防署員、介護相談員を招いて意見交換を行い当ホームの理解を得ている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議にて参加され、意見や情報交換を行っている。毎月の行事や利用者状況、入退者、事故等を伝え、内情を知っていただき理解を得ている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束について、全職員が正しく理解し、定期的に勉強会を実施している。また、言葉の拘束にも注意をはらい対応している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止、身体拘束廃止についての勉強会を実施したり、外部の研修へ参加している。 | | |

認知症対応型共同生活介護事業所 くりそケアセンターそよ風(りんどうユニット)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度を利用しているご入居者もあり、より深く制度を理解するためにも、勉強会を実施している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約、解約時には、一通りの説明後質問等の有無を確認している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 施設内に目安箱を設置し、自由に意見できるようにしている。また、契約書、重要事項説明書に内部、外部の苦情相談窓口を掲載し説明をしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回のユニット毎のミーティングや個別面談を行い、職員の意見等を聞く機会を設けている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 有期雇用制度の中で一定期間の個別面談、また、対象でない職員にも個別面談の場を設け、職員の意見を反映できるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修情報を伝え、参加を働きかけている。また、全体会議後や各セクションミーティング後に勉強会を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 支社単位で月一回の協議会を実施し仕事の悩み等を話し合い、交流や連係を図っている。また、市で定期的開催される連絡協議会に参加し交流を図り、情報を得ている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に施設を見学していただき、生活の場を見てもらっている。担当ケアマネジャーやご家族と面談し困っていることや本人の希望等を伺っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族とご入居者の要望や悩みを聞き取り、解決が出来るように話し合い対応している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人やご家族が、必要としている支援の相談等をされた時点で見極め、サービス利用の調整を素早く行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日頃の会話の中で、風習や個々の習慣を聞き入れ学ぶこともある。また、掃除、洗濯物等を共に行い共助の関係を努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃の様子を電話や面会時にお話しし、毎月のお便りや写真でご本人の状況を把握して頂けるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前の友人と交流が出来るように、併設の通所介護へ行き来できるよう配慮している。また、馴染みの方の面会時、ご入居者居室にてゆっくりと過ごして頂き、再来所をして頂けるよう声かけをしている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご入居者の身体的、精神的問題を考えご入居者同士の良い関係が出来るよう席を工夫したり、助け合えるように配慮している。 | | |

認知症対応型共同生活介護事業所 くりそケアセンターそよ風(りんどうユニット)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じ、新生活の相談にのり継続的にご入居者をサポートできるように、努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご家族やご本人から今までの生活歴やその思い、暮らし方の希望を把握し支援している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人、ご家族、ケアマネージャーに、これまでの生活様式を聞きとり、それを把握し生活に活かしている。また、愛用の物を持参して頂けるよう声かけを行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 現在の残存能力を把握している。また、体調の変化や生活の中で変化があれば、職員間で情報を共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 生活についての変化や課題があれば、より良い生活が送れるようサービス担当者会議を開催し、その中で意見を反映して介護計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 支援経過記録や日誌に記録し、申し送りを行うと共に、担当者会議で意見交換し情報の共有を図っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設の通所介護や短期入所事業所との合同の行事の開催を行ったり、看護師の連携により体調管理に取り組んでいる。また、在宅診療所による在宅療養管理指導により主治医と24時間連携が取れる体制となっている。 | | |

認知症対応型共同生活介護事業所 くりそケアセンターそよ風(りんどうユニット)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 自治会に加入し一斉清掃や避難訓練へ参加している。また、散歩やドライブに出掛け、四季折々を楽しんで頂けるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の継続可能な場合はご家族対応で、独居ご入居者やご家族対応が出来ない方は、提携医療機関による定期的な往診を受け、24時間医療相談を電話で可能になっている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 1日2回のバイタルチェックを行い記録している。体調の変化や異常があれば施設内の看護師に連絡し指示を受け、速やかに対応を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退時は既往症や服薬情報を文書で渡している。病棟訪問時、医療機関との関係作りをしている。また、スタッフが同席し家族と主治医から説明を受けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 医療の対応が限られている為、入所時、重要事項説明書にて説明している、出来る限りの支援を行えるよう、医療機関との連携と勉強会を設けている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に研修会を行っている。また、看護師と連携し、ご入居者の容態変化等の緊急時には、速やかに対応出来るよう職員の連絡体制が出来ている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を実施している。また、近隣の方々に施設の見学会を行い、協力体制を築き、自治会の避難訓練に参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレ誘導の際の声かけし十分配慮している。居室でのおむつ交換時には、ドアを閉め他者の目に付かないようにしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 分かりやすい言葉での説明を心がけ、本人の思いを傾聴し、自己決定出来るよう支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調や思いを汲み取り、その方のペースで過ごせるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合った清潔感のある身だしなみが出来よう支援している。また、訪問美容を希望で利用している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事前にテーブル拭き、ランチョンマットの準備、食後は、食器の片づけなど職員と一緒にいき楽しみと意欲に繋げている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々人の嗜好や嚥下状態に合わせた食事の提供をしている。また、日々の食事、水分摂取量を記録し不足にならないよう気を付けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々人に応じた口腔ケアを実施している。義歯は、毎晩預かり、洗浄し清潔保持している。 | | |

認知症対応型共同生活介護事業所 くりそケアセンターそよ風(りんどうユニット)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表の記録を行うことで、一人ひとりの排泄状態を把握し、声かけ誘導を行っている。体調不良時、一時的な理由でポータブルトイレを使用した場合、元の排泄様式に戻れるよう支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分や食事の摂取状態を記録し把握することで、水分や食事の量を工夫している。また、消化の良いものなど、食事内容も考慮している。散歩や朝の体操を実施している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴前のバイタルの数値や顔色等を考慮し、入浴の不可を判断する。ご利用者の好みにあった湯の温度や入浴剤でより楽しんで頂けるよう支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の希望や前日の入眠状態を考慮し、日中でも、居室で睡眠を取り入れるよう配慮している。定期的に、布団干しや運動をすることにより気持ち良く眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員一人ひとりが、服薬する薬の効用を理解出来るよう処方箋をファイルしている。また、準備の際、服薬個数を記入し服薬時に服薬個数を確認し二重チェックをしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご入居者の趣味や生活歴を活かした役割、出番を作り、張り合いある生活が送れるよう支援している。また、ご入居者との会話の中で食べたいものを聞き、朝食やおやつに取り入れている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日には、散歩に行っている。定期的に車を利用し、外出して気分転換を図っている。 | | |

認知症対応型共同生活介護事業所 くりそケアセンターそよ風(りんどうユニット)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人の金銭出納帳があり、職員が管理を行っている。外出時や買い物には、ご本人にお金を渡し会計をして頂く場合もある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の取り次ぎを行っている。また、年賀状や暑中見舞いを書いて家族や大切な人に出せるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感のある花を置き、ご利用者と職員で作成した季節ある作品を飾っている。また、台所と居間が共用の場となっており家庭的な雰囲気を出している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 各自、好きなテレビやビデオや本を読んだり、体を休めたりできるソファを設置しご入居者同士が交流できるよう支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物を使って頂き、本人の意向を優先し、安心して穏やかに過ごせる場所を作っている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 食器拭き、洗濯物干し、洗濯たたみ、掃除など出来ることは行っていたり自立して暮らせるよう支援している。また、特技や趣味を発揮でき生活に張りが持てるよう支援している。 | | |